



3 次の文章を読んで後の各問に答えなさい。

故郷の町は、東京よりもずっと西にあった。そのぶん遅い夕暮れも、もう茜色(あかねいろ)が空からほとんど消えかかった頃(ころ)だった。

真一(まいつ)は小学校の校庭で、さかあがりの練習をしていた。あせっていた。悔(くや)しさで情けな(なさ)で泣き出してしま(い)そうだった。

最初はクラスの半分近(ぢか)かった(へ)できない組(ぐ)が授業(じゆぎやう)のたびに減(へ)っていき、気がつけば残り数人(た)になっていた。その日(ひ)いっしょに練習(れんしゆ)をしていた(へ)できない組(ぐ)の仲間(なかま)も、一人また一人と「できたあ!」の歓声(かんせい)とともに家に帰(かへ)ってしま(い)、校庭(がうてい)に残(のこ)ったのは真一(まいつ)だけだった。

下校(げがう)のチャイムはとうに鳴(な)っていた。暗(く)くなった空(そら)と、町(まち)を囲(こ)んだ山(やま)なみとの境目(さかいめ)が、もう見分(みわ)けられない。北風(きたかぜ)にさらされた鉄棒(てつぼう)を握(にぎ)り直す(な)たびに、肩(かた)や背中(せなか)が冷た(ひや)さに(一)縮(こ)んだ。

手のひらや指(ゆび)の節(ふし)にできたマメ(め)が、うずくように痛(いた)む。どうしても尻(しり)が鉄棒(てつぼう)より上(う)にいかない。たまに、今度はいいぞ、というところまで来(き)ても、下腹(げはら)を鉄棒(てつぼう)に引き寄(よ)せることができず、脚(あし)が地面(ぢめん)に落ちてしま(い)う。何度(なんど)やってもだめだ。負けず嫌(いや)いの気力(きりき)も萎(な)えて、もういいやあ、と鉄棒(てつぼう)の下(した)へたりこんでしま(い)った。

(さかあがりの神様)は、そんな真一(まいつ)の前に姿(すがた)を現(あらわ)したのだった。

体の大きな男(おとこ)だった。ボア(ボア)の付(つ)いた紺色(こんしき)のナイロンジャンパーを着(き)ていた。校庭(がうてい)には明(あ)かりがないので顔(かほ)はわからなかったが、なにか怒(おこ)っているような雰(ふん)囲(い)気(き)だった。

学校の用務員(ようむぎん)さんだ、と最初は思(おも)った。

真一(まいつ)はあわてて立ち上(た)がり、半ズボン(はんずぼん)の尻(しり)についた砂(すな)を払いながら、「すぐ帰(かへ)ります」と言(い)った。

「逃げ(に)んでもええ」

しわがれた低い声(こゑ)が聞こ(き)えた瞬間(しゆんかん)、身(み)がすくんだ。怖(こわ)かった。目(め)を上げて顔(かほ)を確(た)かめることもでき(き)ない。

「さかあがりの練習(れんしゆ)しよるんか」

恥(は)ずかしさと、そして悲(かな)しさが胸(むね)に湧(わ)いてきた。

父親(ちち)のいない暮(く)らしに負(ま)い目(め)を感じ(か)じていたわけではない。母親(はは)は簿記(ぼき)の資格(しやくかく)を持(も)っていたので生活(せいかつ)には困(こ)らなかつたし、ものごころつく前(まへ)に亡(な)くなったのが逆(さか)によかつたのだから、父親(ちち)との思(おも)い出(で)をたど(たど)って悲(かな)しくなることもなかつた。

それでも、寂(さび)しさは、ある。ときどき不意(ふい)打ち(うち)のように胸(むね)を刺(さ)す。父親(ちち)に肩(かた)車(くるま)してもらっている友(とも)だちを見(み)かけたとき、父親(ちち)のこぐ自転車(じてんしゃ)に二人(ふたり)乗り(のり)をする友(とも)だちに声(こゑ)をかけられたとき、いたずら(いたずら)をして父親(ちち)にびんた(びんた)を張(は)られた友(とも)だちに、赤(あか)く腫(は)れた頬(ほ)を触(さわ)らせてもら(ら)ったとき……。

④ さかあがりでも、そうだ。父親(ちち)に手伝(てでん)ってもら(ら)って練習(れんしゆ)したという友(とも)だちになら(な)って、何日(なんにち)か前(まへ)、さかあがりのコーチ(こーち)を一度(いちど)だけ母親(はは)に頼(たの)んだ。しかし、尻(しり)を持ち上(た)げてもら(ら)おうにも、母親(はは)の細(こ)い腕(うで)では小太(こた)いの真一(まいつ)の体(てい)を支(さ)えきれない。地面(ぢめん)に落ち(お)ちる脚(あし)といっしょに母親(はは)まで尻餅(しりもち)をついてしま(い)、母親(はは)はまだがんばるつもり(もつり)だったが、真一(まいつ)のほう(ほう)が「もうええよ、危(あぶ)ないから」と止(と)めたのだった。

⑤ 験(あま)が重(おも)くなった。いけ(い)ない、と思(おも)ったとたん、涙(なみだ)があふれた。歯(は)を食(く)いしば(しば)ったすすり泣(な)きは、やがて嗚咽(なげなげ)交(まじ)りの涙(なみだ)に変わ(か)わり、最後(さいご)は鉄棒(てつぼう)に目元(めもと)を押しつけて、声(こゑ)をあ(あ)げて泣(な)いた。冷(ひや)たい鉄棒(てつぼう)に涙(なみだ)の温(ぬく)もりが滲(しみ)みていく。錆(さび)びた鉄(てつ)のにおい(におい)に、しよっぱ(しよっぱ)さが溶(と)けた。

「もういっ(い)っぺん、や(や)って(と)みい」

男(おとこ)が言(い)った。濁(にご)った声(こゑ)を、もう怖(こわ)いとは思(おも)じなかつた。一度(いちど)泣(な)いてしま(い)え(え)ば、悲(かな)しさも恥(は)ずかしさも消(き)えて、残(のこ)ったのは誰(たれ)にぶ(ぶ)つけていいかわ(わ)からない悔(くや)しさだけ(だけ)だった。

「今度は脚(あし)を上(あ)げるときに『このやろ(やろ)う!』思(おも)うてや(や)って(と)みい。肘(ひじ)をも(も)つと曲(ま)げて、脚(あし)より上(う)へ(へ)ソ(ソ)を鉄棒(てつぼう)につ(つ)けるつもり(もつり)で、腕(うで)と腹(はら)に『くそ(くそ)つたれ!』い(い)うて力(ちから)を入(い)れるんじや。目(め)もつ(つ)ぶ(ぶ)つとけ。そう(そう)したら、で(で)きるわ(わ)い」

真一(まいつ)は鉄棒(てつぼう)を強(こ)く握(にぎ)りしめた。もう一度(いちど)——これ(これ)で最後(さいご)。

肘(ひじ)を深(ふか)く折(よ)り曲(ま)げ、「このやろ(やろ)う!」と心(こゝろ)の中(なか)で一(いっ)声(こゑ)叫(な)んで、脚(あし)を跳(は)ね上(あ)げた。へ(へ)ソ(ソ)をつ(つ)ける。腕(うで)と腹(はら)が痛(いた)い。目(め)をつ(つ)ぶり、息(いき)を詰(し)めて「くそ(くそ)つたれ!」

おとな同士(どうし)でしゃべるとき(とき)のように、笑(わ)いのない声(こゑ)だった。真一(まいつ)は思(おも)わず「ごめん(ごめん)なさい」と答(こた)えたが、顎(あご)も口(くち)もこわ(こわ)ば(ば)つていて、うま(うま)く動(うご)かなかつた。上目遣(うめぢ)いでお(お)そるお(お)そる顔(かほ)を見(み)た。知(し)らないひと(ひと)だった。太(お)い眉(まゆ)毛(げ)と(Ⅱ)した目(め)が(が)いっしょ(しよ)につ(つ)り上(あ)が(が)つて、学(が)校(が)で一番(いちばん)お(お)つか(つか)ない山田(やまだ)先生(せんせい)よりず(ず)つと怖(こわ)そう(そう)だ(だ)った。

「でき(でき)んのか(か)」と男(おとこ)はつ(つ)づ(づ)けた。怒(おこ)られる、と(と)しか思(おも)えな(な)かつた。小(こ)さ(さ)くう(う)なず(ず)いたつ(つ)もり(もり)だ(だ)ったが、男(おとこ)は声(こゑ)をさら(さら)に濁(にご)ら(ら)せて言(い)った。

「ど(ど)つち(ち)な。で(で)きる(る)んか(か)、で(で)き(き)んのか(か)」

「……で(で)き(き)ませ(せ)ん」

泣(な)きそう(そう)にな(な)った。こ(こ)んな(んな)に怖(こわ)いひと(ひと)に会(あ)うのは初(は)めて(めて)だ(だ)った。お(お)とな(なの)男(おとこ)のひと(ひと)に怒(おこ)られるのも、初(は)めて(めて)。それ(それ)以前(いぜん)に、お(お)とな(なの)男(おとこ)のひと(ひと)と二人(ふたり)き(き)りにな(な)ったこと(こと)も、ほ(ほ)んど(んど)ない。

真一(まいつ)は赤(あか)んぼう(ぼう)の頃(ころ)に父(ちち)親(おや)を病(びやう)気(き)で亡(な)くして(して)いた。母(はは)一人(ひとり)子(こ)一人(ひとり)の暮(く)らしだ(だ)つた。親戚(しんせき)や近(ぢか)所の男(おとこ)のひと(ひと)は皆(みな)、真一(まいつ)に話(わ)しかける(ける)ときは優(やさ)しい声(こゑ)をつ(つ)く(く)てくれた。その理(り)由(ゆ)と、「不(ふ)憫(み)な子(こ)」の意(い)味(み)を真一(まいつ)が知(し)るのは、ず(ず)つとあ(あ)とに(に)な(な)つて(て)から(から)のこと(こと)だ(だ)。

「怖(こわ)がら(ら)んでえ(え)え(え)け(け)え、い(い)っ(い)っぺ(ぺ)ん(ん)や(や)つ(つ)て(と)み(み)い(い)や」

③ 男(おとこ)は鉄棒(てつぼう)に顎(あご)を(を)しゃ(しゃ)く(く)つ(つ)た。逃(に)げ(げ)だ(だ)した(した)く(く)ても、足(あし)が震(ふる)えて(えて)しま(い)って動(うご)け(け)ない。助(たす)けを求(もと)めよう(よう)にも校庭(がうてい)に人影(ひとかげ)は(は)ない。

「お(お)じ(じ)ちゃん(ちゃん)が見(み)え(え)る(る)け(け)え、や(や)つ(つ)て(と)み(み)い(い)」

もう一度(いちど)う(う)なが(なが)さ(さ)れた(れた)。声(こゑ)がほ(ほ)んの少(す)し(し)だけ優(やさ)しくな(な)ったよう(よう)な気(き)が(が)した(した)が、早(はや)く(く)さ(さ)かあ(あ)がり(り)を(を)やら(ら)ない(ない)と、ま(ま)た怖(こわ)く(く)なる(なる)か(か)も(も)し(し)れ(れ)ない(ない)。

鉄棒(てつぼう)につ(つ)かま(ま)つた。腕(うで)の幅(はた)を調(てい)節(せつ)する(する)間(ま)も(も)なく、地(ぢ)面(めん)を蹴(け)り上(あ)げた。

今(いま)度も(も)だ(だ)め(め)だ(だ)った。腕(うで)も脚(あし)も(Ⅲ)疲(つか)れて(れて)いた(いた)し、男(おとこ)の視(し)線(せん)が(が)気(き)にな(な)つ(つ)て、い(い)ま(ま)ま(ま)で(で)の中(なか)でも(も)一(いち)番(ばん)ひ(ひ)ど(ど)い(い)で(で)き(き)だ(だ)つ(つ)た。

「こ(こ)り(り)や(や)あ、ぜ(ぜ)ん(ぜん)ぜ(ぜ)ん(ぜん)お(お)え(え)ん(ん)の(の)う(う)」

男(おとこ)は初(は)めて(めて)笑(わ)つた。笑(わ)つても(も)し(し)わ(わ)が(が)れ(れ)声(こゑ)は(は)変(か)わ(わ)ら(ら)な(な)かつた(かつた)が、つ(つ)り上(あ)が(が)つ(つ)て(て)いた眉(まゆ)毛(げ)や目(め)が人形(にんぎやう)劇(げき)の(の)人形(にんぎやう)の(の)よう(よう)に急(いそ)に下(くだ)が(が)つ(つ)た。

怒(おこ)られ(られ)ず(ず)にす(す)んだ(んだ)。

ほ(ほ)つ(つ)として息(いき)をつ(つ)くと、怯(おそ)えた(えた)気(き)持(も)ち(ち)と入(い)れ替(か)わ(わ)る(る)よう(よう)に、悔(くや)しさ(さ)と

と叫(な)び(び)声(こゑ)を奥(おく)歯(は)で噛(か)みし(し)めた(めた)。

あと(あと)と少(す)し。い(い)い(い)とこ(こ)ろ(ろ)ま(ま)で(で)来(き)た(た)が、こ(こ)れ(れ)以上(いじやう)以上(いじやう)、尻(しり)が(が)持(も)ち上(あ)が(が)ら(ら)ない(ない)。

その(その)とき(とき)だ(だ)つ(つ)た。

⑤ 尻(しり)がフワツ(ふわつ)と軽(かろ)くな(な)つた。

手(て)のひ(ひ)ら(ら)で支(さ)えて(えて)もら(ら)つた(つた)——と(と)思(おも)う(う)間(ま)も(も)なく、体(てい)の重(おも)心(しん)が(が)手(て)前(まへ)に傾(かた)き、腰(こし)から上(う)が勝(か)手(て)に動(うご)いた。世(よ)界(かい)が逆(さか)さに回(まわ)つた。自(じ)分(ぶん)でも(も)な(な)が起(た)きた(きた)の(の)か(か)わ(わ)か(か)ら(ら)ない(ない)ほ(ほ)ど(ど)あ(あ)つ(つ)け(け)なく、そ(そ)して(して)き(き)れ(れ)い(い)に、さ(さ)かあ(あ)がり(り)は(は)成(せい)功(こう)した(した)の(の)だ(だ)。

「で(で)きた(た)じ(じ)や(や)ろ(ろ)う(う)が」

男(おとこ)は初(は)めて(めて)笑(わ)つた。思(おも)つた(つた)より遠(とほ)くに(に)いた(いた)。手(て)を伸(の)ば(ば)して尻(しり)を支(さ)える(る)には距(きょ)離(り)が(が)あ(あ)る(る)。と(と)い(い)う(う)こ(こ)と(と)は(は)自(じ)分(ぶん)の(の)力(ちから)で……い(い)や、し(し)か(か)し、半(はん)ズ(ズ)ボ(ボ)ン(ン)の(の)尻(しり)には、手(て)のひ(ひ)ら(ら)で押(お)し上(あ)げて(て)もら(ら)つた(つた)感(かん)触(じゆく)が(が)ま(ま)だ(だ)残(のこ)つ(つ)て(て)いた(いた)。

「もう(もう)い(い)っ(い)っぺ(ぺ)ん(ん)や(や)つ(つ)て(と)み(み)い。体(てい)が(が)忘(わ)れ(れ)ん(ん)よ(よ)う(う)、練(れん)習(しゆ)す(す)る(る)ん(ん)じ(じ)や」

言(い)わ(わ)れた(れた)と(と)お(お)り、何(なん)度も(も)練(れん)習(しゆ)した(した)。ず(ず)つと成(せい)功(こう)が(が)つ(つ)づ(づ)いた(いた)。尻(しり)が鉄棒(てつぼう)を越(こ)え(え)るとき(とき)に手(て)のひ(ひ)ら(ら)に支(さ)え(え)ら(ら)れる(る)、それ(それ)も(も)同(どう)じ(じ)。だ(だ)が、成(せい)功(こう)して脚(あし)を地(ぢ)面(めん)につ(つ)いた(いた)あと(あと)、ず(ず)くに目(め)を開(ひら)けて確(た)かめ(め)ると、男(おとこ)は(は)い(い)つ(つ)も(も)鉄棒(てつぼう)から離(はな)れた(れた)ところ(ところ)で腕(うで)組(ぐ)み(み)を(を)して立(た)つ(つ)て(て)い(い)る(る)の(の)だ(だ)つ(つ)た(た)。

何(なん)度(ど)目(め)だ(だ)つ(つ)た(た)ら(ら)う(う)か。初(は)めて(めて)、手(て)のひ(ひ)ら(ら)に支(さ)え(え)ら(ら)れる(る)こと(こと)なく(なく)さ(さ)かあ(あ)がり(り)に成(せい)功(こう)した(した)。

「や(や)つ(つ)た(た)あ(あ)ー!」

⑥ 思(おも)わ(わ)ず(ず)声(こゑ)を(を)あ(あ)げ(げ)て(て)男(おとこ)の(の)姿(すがた)を(を)探(たず)ね(ね)た(た)。

ど(ど)こ(こ)に(に)も(も)い(い)な(な)かつた(かつた)。神(かみ)様(さま)だ、と(と)思(おも)った(つた)。(さ)かあ(あ)がり(り)の(の)神(かみ)様(さま)が(が)助(たす)けて(て)くれ(くれ)た(た)の(の)だ(だ)、と(と)信(しん)じた(じた)。

それ(それ)を確(た)かめ(め)たく(たく)て、もう(もう)一(いち)度(ど)や(や)つ(つ)て(と)み(み)た(た)。だ(だ)い(い)じ(じ)よう(よう)ぶ(ぶ)。何(なん)度も(も)練(れん)り返(かへ)し(し)た(た)。で(で)きる(る)。「この(この)や(や)ろ(ろ)う(う)!」と「く(く)そ(くそ)つ(つ)た(た)れ(れ)!」が(が)な(な)く(く)ても、世(よ)界(かい)は(は)気(き)持(も)ち(ち)が(が)い(い)い(い)ぐ(ぐ)ら(ら)い(い)簡(かん)単(たん)に(に)逆(さか)さに(に)回(まわ)つ(つ)て(て)く(く)れ(れ)る(る)。

なぜ(なぜ)だ(だ)ら(ら)う(う)、それ(それ)は(は)初(は)めて(めて)体(てい)験(けん)した(した)は(は)ず(ず)の(の)感(かん)覚(かく)な(な)の(の)に、す(す)う(う)つ(つ)と昔(むかし)に味(あじ)わ(わ)つ(つ)た(た)心(こゝろ)地(ぢ)よ(よ)さが蘇(よみがえ)つ(つ)た(た)よう(よう)な(な)気(き)が(が)し(し)て(て)な(な)ら(ら)な(な)かつた(かつた)。

(重(しむ)松(まつ)清(きよ)「さ(さ)かあ(あ)がり(り)の(の)神(かみ)様(さま)」より)

注(ちゆ) ボア……毛(け)皮(かわ)や羽(う)毛(げ)で(で)作(つく)つた(た)襟(えり)巻(まき)。こ(こ)こ(こ)で(で)は、コ(コ)ー(ー)ト(ト)の(の)襟(えり)や袖(そで)など(など)に(に)つ(つ)けた(た)毛(け)足(あし)の(の)長(なが)い(い)織(お)物(もの)。



